

# ソラシティ 総社市が セカンドステージへ



※旧価格のごみ袋と、新価格のごみ袋は交換しません。なお、旧価格のごみ袋も引き続き使用できます。

ごみ袋  
値下げ

市民の努力で実現

問い合わせ  
環境課美化推進  
係  
(02)8333-8

雑がみ回収でさらなるごみ減量を！目指せ100トン！

お菓子の箱、封筒・はがき、ラップの芯、レシート、紙袋などは「雑がみ」といい、再生可能な資源です。これらの雑がみを市役所や各支所、出張所、東・西公民館に持参すると、2kgにつき30リットルの市指定ごみ袋1枚と交換しています。なお、8月から交換するごみ袋のサイズを、持参した雑がみの量により選ぶことができるようになります。詳しくは環境課まで。

『広報そうじや』では雑がみ回収に持ち込まれた重量と人数の累計を掲載しています。回収量100トンを目指し、雑がみのリサイクルにご協力をお願いします。



## 市民の努力で値下げ実現

平成22年10月に市指定ごみ袋の販売額を半額にしたことを機に、「変動相場制」を導入。おむね3年間の家庭ごみ排出量の増減を基に、ごみ袋の販売額を見直すこととしていました。

今年10月で3年が経過。皆さんの努力により家庭ごみ排出量が、半額前と比べて7.7%減量しました。この実績を踏まえ10月から、ごみ袋1組（10枚入り）の販売額を45リットルは230円に、30リットルは140円に、20リットルは90円に値下げします。なお、6月から販売を開始した10リットルについては現行（50円）のままでです。

今回のごみ袋販売額の値下げでは、旧価格で購入済みのごみ袋と新価格のごみ袋の交換や差額の返金などは行いませんので、計画的な購入をお願いします。なお、値下げ後も旧価格のごみ袋は使用できます。

総社市はこれまで、障がい者千人雇用や地産地消を進める地・食べ、雪舟くん、多文化共生など多くの総社流政策を進めてきました。これら独自の施策で着実に変貌を遂げてきたまち総社。今年度に入り、株式会社モンテールと立地協定を結び、さらに進み続ける企業立地。そして、市民の行動で変わるごみ袋変動相場制によるごみ袋の販売額。一括補助金制度や小児・高齢者医療費の削減など、行政主導型の政策から自ら考え実行する市民による自立のためのまちづくり、「セカンドステージ」に変わっていきます。



6月4日林芳正農林水産大臣に対し、市長自ら農地転用制限の緩和を要望した

市の主要事業の効率的な実現や財源の確保などのため、6月から7月にかけて国、県にに対する要望活動をしました。岡山県庁や岡山県議会、中国地方整備局、岡山国道事務所、岡山河川事務所のほか、農林水産省や国土交通省、厚生労働省、内閣府といった中央省庁や衆・参議院も訪問。市が推進する事業のアピールや協力要請をしました。この要望活動は、市から一方的に国や県に依存して施策を進めるのではなく、県を、そして国を変える気概をもって臨んでいきます。